

授業概要

本演習は 3 年次からの専門演習に向けての「予行演習」と位置づけられる。したがって、本を読むこと、そして口頭発表の練習や質疑応答に重点が置かれることになる。適宜、関連する DVD を視聴し意見交換も行う。

テキストは次の 2 冊を使用する。

① 外山滋比古『思考の整理学』

大学では専門的な知識を蓄えることが必要であることは言うまでもない。しかしながら他方で、知識の修得のみで満足するのではなく、蓄積した知識を活かしながら、人間や社会が直面するさまざまな問題を解決するために考え抜くということも、大学で学ぶ者にとっては大事なことである。本書を通じて、「思考」する際に役立つであろうヒントを得たい。

② 鹿野政直『近代国家を構想した思想家たち』

近代の日本思想を学んでいく。毎回日本の代表的な思想家を取り上げ、「国民」の形成、世界と日本、変革の思想などの問題を考えていきたい。

進め方としては、受講者各人に割り当てをした上で、担当箇所を発表をしてもらう。読書の習慣や口頭発表の作法を身につけてもらえるようキメ細かく指導する。

授業計画

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	『思考の整理学』の講読①	第 17 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読①
第 3 回	『思考の整理学』の講読②	第 18 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読②
第 4 回	『思考の整理学』の講読③	第 19 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読③
第 5 回	『思考の整理学』の講読④	第 20 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読④
第 6 回	『思考の整理学』の講読⑤	第 21 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑤
第 7 回	『思考の整理学』の講読⑥	第 22 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑥
第 8 回	就職活動関連の DVD の視聴と意見交換	第 23 回	歴史関連の DVD の視聴と意見交換
第 9 回	『思考の整理学』の講読⑦	第 24 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑦
第 10 回	『思考の整理学』の講読⑧	第 25 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑧
第 11 回	『思考の整理学』の講読⑨	第 26 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑨
第 12 回	『思考の整理学』の講読⑩	第 27 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑩
第 13 回	『思考の整理学』の講読⑪	第 28 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑪
第 14 回	『思考の整理学』の講読⑫	第 29 回	『近代国家を構想した思想家たち』の講読⑫
第 15 回	春期の総括	第 30 回	秋期の総括

到達目標

- ① 本を読む習慣を身につける。
- ② 口頭発表やレジュメの作成に慣れる。
- ③ 自分の意見を述べるができるようにする。

履修上の注意

- ① 日本史、特に近現代史に興味を持っている者が受講者としては望ましい。
- ② 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

予習・復習

- ① テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- ② 自分の発表に際しては、レジュメを作成する。

評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

テキスト

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書名：思考の整理学 ・著者名：外山滋比古 ・出版社名：ちくま文庫 ・出版年 (ISBN)：1986 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書名：近代国家を構想した思想家たち ・著者名：鹿野政直 ・出版社名：岩波ジュニア新書 ・出版年 (ISBN)：2005 年 |
|---|---|

授業概要

今年度伊藤基礎演習の共通テーマは、西洋文化の「普遍性」とします。ヨーロッパに起源を有する西洋文化には、ヨーロッパ以外のほとんどの諸文化に受け入れられるという、「普遍性」が備わっています。かつてドイツ 20 世紀を代表する社会学者マックス・ウェーバーは、ヨーロッパ文化の特質をこの「普遍性」に求めたのでした。もちろん世界各地にはそれぞれのローカルな民族文化が存在し、それらには西洋文化にはない魅力があることは確かです。そしてそのいくつかは、現在世界に広く受け入れられているものもあります。しかしそれらは西洋文化を経由して世界に受け入れられたのでした。西洋文化はローカルな文化が世界にアクセスするためのアプリのようなものと、みることもできます。その秘密を、討論を通して深めてみましょう。

授業計画

第 1 回	春期概要説明：テキスト選定の目的・狙い	第 16 回	春期成果の確認 秋期概要説明
第 2 回	『フランス・ルネサンスの人々』①：主題の説明	第 17 回	ヨーロッパとは何か①：主題説明
第 3 回	② ある古典学者の話	第 18 回	ヨーロッパとは何か②：増田史郎の視点
第 4 回	③ ある外科医の話	第 19 回	ヨーロッパとは何か③：増田史郎の視点
第 5 回	④ ある陶工の話	第 20 回	ヨーロッパとは何か④：増田史郎の視点
第 6 回	⑤ ある宰相の話	第 21 回	ヨーロッパとは何か⑤：増田史郎の視点
第 7 回	⑥ ある占星師の話	第 22 回	小括：ヨーロッパ中世のイメージ
第 8 回	⑦ ある出版屋の話	第 23 回	ヨーロッパ人の自画像①：フェーブル
第 9 回	⑧ ある東洋学者の話	第 24 回	ヨーロッパ人の自画像②：フェーブル
第 10 回	⑨ ある王公の話	第 25 回	ヨーロッパ人の自画像③：フェーブル
第 11 回	⑩ ある神学者の話 (a)	第 26 回	ヨーロッパ人の自画像④：フェーブル
第 12 回	⑪ ある教祖の話 (a)	第 27 回	ヨーロッパ人の自画像⑤：フェーブル
第 13 回	⑫ ある教祖の話 (b)	第 28 回	ヨーロッパ人の自画像⑥：フェーブル
第 14 回	⑬ ある神学者の話 (b)	第 29 回	小括：ヨーロッパ文化の普遍性を巡って
第 15 回	春期成果のまとめと秋期準備：各自研究テーマの開示と課題小論文の指定	第 30 回	今年度演習の総括 各自の研究成果と課題について総評

到達目標

プレゼンテーション能力を高め、実社会で職業人として活躍できる資質を養います。

- ・自分と異なる意見を尊重しながら、自分の意見をしっかりと表明できる力を養います。
- ・世界史における「西洋」の位置を理解し、自分自身の問題意識を持つこと。

履修上の注意

- ・「西洋史入門」や「西洋史概説」の受講を推奨します。ただし意欲さえあればこれらを受講していない諸君の参加も歓迎します。
- ・やむを得ない欠席や遅刻・早退は、事前に指導教員に通知し、了解を取らなければいけません。

予習・復習

演習は、全員が力を合わせ、心を一つにして初めて成り立つ授業です。そのためにはメンバー皆が、事前に時間を十分にかけ、入念に準備して臨むことが必要です。春期ではテキストを十分に読み込んで参加してください。秋期には、プレゼンターを毎回指名します。プレゼンターは報告レジュメ（発表骨子）を作成し、ゼミで披露します。その他のメンバーは、プレゼンターのために建設的な批判ができるよう準備してください。

評価方法

- ・レジュメ並びに小論文の内容の的確さと発表者の論点の独自性、プレゼンテーションやコメントの姿勢の真摯さ、そして演習という共同作業にどれほど貢献できたかを審査し、総合的に評価します

テキスト

- ・教科書名：『フランス・ルネサンスの人々』
- ・著者名：渡辺一夫
- ・出版社名：岩波書店（岩波文庫）

• 出版年：2014年

授業概要

この演習では、知的好奇心をなまけさせないように、現代の学問の奥深さに触れ、世界の中の日本を意識して、情報を発信したり受け取ったりするための基礎力を身に着けるために、特に「英語」で「読む」「書く」「話す」「聞く」の力を伸ばしていくことを目指したいと思います。ゼミ形式ですので発表が課せられる授業です。具体的には英語のボキャブラリーを増強する練習問題や英文を読んでそれについて批判的に考える練習やディスカッションをします。グローバル化した社会で、英語力を錆びさせない練習を取り入れます。またニュースなども取り入れ言葉による表現力の基礎を鍛える練習問題も使う予定です。ディズニーを英語で読むシリーズや英語字幕の映画英検教本を教材に使うことも考えています。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	First Impression 第一印象は大事
第2回	Study abroad 留学:価値観	第17回	Big or Small?住むなら都会/地方?
第3回	Nuclear Power 原子力:事実と意見	第18回	The Language 英語の習得法
第4回	Immigration 移民問題:信念と偏見	第19回	Education 教育について考える
第5回	The Social Safety Net 社会保障	第20回	Forever Single 人間関係
第6回	Global Warming 地球温暖化	第21回	What are friend for?友情について
第7回	Women in Workplace 職業と女性	第22回	What's for Lunch?食品と環境問題
第8回	School on Saturday 土曜授業	第23回	Your Online Past ITとプライバシー
第9回	Food Labeling 食品の安全	第24回	Taking Care of Parents 介護問題
第10回	Etiquette and IT: IT時代のマナー	第25回	My Student Life 大学の生活と将来
第11回	Merit-based Pay 成果主義	第26回	International Relationship 国際関係
第12回	American Military Base 米軍基地問題	第27回	Create Better Future より良い未来
第13回	Taxes 税金について考える	第28回	Discussing Rumors 人の噂について
第14回	Animal Rights 動物の権利と養護	第29回	Government Control 国の政策
第15回	Hosting the Olympics 五輪開催の是非	第30回	What Makes You Happy?幸福とは
		第31回	筆記試験

到達目標

図書館との付き合い方の習得、読んだものを記録として残す、ゼミ形式の授業に慣れる。英語でいろいろな問題についての記事を(辞書を引き)読む、講義を聞く(質問することによって参加意識を確立する)、ノートの取り方、研究のテーマを決める、補助教材としての印刷教材を土台にして、口頭発表、種々のレポートの作成。

履修上の注意

議論や批判的な考えの材料になる英語の記事を中心に読んだり書いたり、聞いたりすることなどを通して、いろいろな課題で自分の考えをきちんと述べるスキルを学びます。また自分と異なる主張について、それが事実なのか、意見なのか偏見なのかなど配布された印刷補助教材をもとにグループで意見を出し合います。演習のまとめをその日のうちにしておくようにしてください。積み重ねが大切ですので、欠席しないように。

予習・復習

配布された印刷教材にあらかじめ目を通しておき、アンダーラインを引いたり、メモを書き込む。またゼミの時に質問できるようにあらかじめ疑問に思うこと、問題点、自分の代案などを考えておく。毎回、授業の内容や得たことを、ノートに基づいて整理しておくこと。

評価方法

演習への参加度と提出物(30%)、および筆記試験(70%)で総合的に評価します。

テキスト

印刷教材をこちらで用意します。

授業概要

カルチュラル・スタディーズ 映画を読む

映像教材を利用し、映画の重要な場面を見て、映画の文化的無意識を考え、あまり大学では論じられないサブカルチャーが方法次第で、いかにスリルに満ちた研究対象へと変貌するか、そういう作業をする。とりわけ、竜という恐怖イメージを中心的に分析することで、人間にとって敵や恐怖とは何かを考察してゆく。また、『アナと雪の女王』におけるお姫様、クトゥルフ神話 SFにおけるロボットの進化、原発や東日本大震災と津波、原爆のキノコ雲など、様々なテーマを探求したい。『ドラゴンクエスト』はいかなる文化風土から誕生したのか。『シン・ゴジラ』はどのように進化したのか。新海誠の『天気の子』は現代をどう描くのか。ジブリの『崖の上のポニョ』の津波のシーンは、トラウマをかかえた人々にとってどう映るのか。いくつかの疑問を提供することで、映画とサブカルチャーの魅力に迫りたい。

授業計画

第1回	自己紹介 ゼミの目的について	第16回	ゾンビ映画文化論
第2回	『鬼滅の刃』分析—鬼退治とは何か	第17回	『吸血鬼ドラキュラ』の文化史
第3回	竜退治の進化—『白鯨』から『ジョーズ』	第18回	女性の復讐の物語—『四谷怪談』
第4回	『バケモノの子』と『白鯨』	第19回	携帯小説を読む—『窓空』
第5回	『アナと雪の女王』—アニメの変貌	第20回	ライトノベルの文化史
第6回	H・P・ラブクラフト研究	第21回	新海誠の風景『秒速5センチメートル』
第7回	クトゥルフ神話の文化史『エイリアン』	第22回	『君の名は。』とタイムトラベル文化史
第8回	『タクシー・ドライバー』と暗殺者たち	第23回	ジブリと災害—『崖の上のポニョ』
第9回	『ドラゴンクエスト』の文化史	第24回	ジブリと核—『風の谷のナウシカ』
第10回	災害と怪獣文化—ゴジラの文化史	第25回	ジブリと自分探し『千と千尋の神隠し』
第11回	『シン・ゴジラ』論—ゴジラの変貌	第26回	巨人退治の物語論—『進撃の巨人』
第12回	レポート発表会	第27回	SF映画の進化論—赤狩りの映画史
第13回	オタクの文化史—『電車男』論	第28回	ハリウッドSF映画におけるキノコ雲
第14回	『不思議の国のアリス』とロリータ文化	第29回	原爆とアニメ—『この世界の片隅に』
第15回	『リング』と疫病恐怖	第30回	都市伝説の文化論

到達目標

政治的トピックスを考察することで、身の回りの文化現象に関心を持ち、それを分析してゆく知性を養うことを目標とする。また現代社会を生き抜くメディア・リテラシーも養成したい。

履修上の注意

マナーを尊重して楽しい授業にするために、積極的な参加を望みたい。映画の好きな学生は特に歓迎したい。時にセンセーショナルな映像を見ることがあるので、苦手な学生は注意してほしい。多くの資料を配布するのでファイルを持参のこと。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末レポート（60%）、提出物およびコメントペーパー（40%）などの総合評価。

テキスト

- 教科書名：『恐怖の表象 映画/文学における〈竜殺し〉の文化史』
- 著者名：西山智則
- 出版社名：彩流社
- 出版年：2016年

授業概要

日本の国宝・重要文化財の写真を鑑賞しながら、特徴や感想などについて話し合う。それを通じて、人前で意見を述べ、他者の意見を聴く練習を重ねる。同時に、文化財を鑑賞するポイント（仏像の姿形や持物のもつ意味とか、時代判定の着眼点など）を伝授する。なお、古代・中世の仏教美術を中心にとりあげる。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方）	第16回	平安時代③ 中尊寺金色堂ほか
第2回	美術史の基礎知識① 仏像	第17回	平安時代④ 清凉寺釈迦如来立像ほか
第3回	美術史の基礎知識② 建築・絵画	第18回	平安時代⑤ 厳島神社平家納経ほか
第4回	縄文・弥生・古墳時代	第19回	平安時代⑥ 源氏物語絵巻ほか
第5回	飛鳥時代① 高松塚古墳壁画ほか	第20回	平安時代のまとめ
第6回	飛鳥時代② 法隆寺救世観音ほか	第21回	鎌倉時代① 浄土寺阿弥陀三尊像ほか
第7回	飛鳥時代③ 法隆寺金堂・五重塔	第22回	鎌倉時代② 三十三間堂・観音菩薩像
第8回	飛鳥時代④ 中宮寺菩薩半跏像ほか	第23回	鎌倉時代③ 平治物語絵巻ほか
第9回	飛鳥時代（白鳳を含む）のまとめ	第24回	鎌倉時代のまとめ
第10回	奈良時代① 興福寺阿修羅像ほか	第25回	室町時代以降① 慈照寺銀閣ほか
第11回	奈良時代② 薬師寺薬師三尊像ほか	第26回	室町時代以降② 姫路城・犬山城
第12回	奈良時代③ 唐招提寺鑑真和上像ほか	第27回	室町時代以降③ 洛中洛外図屏風ほか
第13回	奈良時代のまとめ	第28回	室町時代以降④ 茶道の美術
第14回	平安時代① 神護寺薬師如来立像ほか	第29回	室町時代以降のまとめ
第15回	平安時代② 平等院鳳凰堂・阿弥陀像	第30回	中国・朝鮮から渡来した文化財

到達目標

いわゆる国宝・重要文化財級の作品を50点くらいは知っていて、名称・制作年代・特徴などを語れるようになること。50点なんてたいへんだ〜！と思うかもしれないが、文化財指定件数（国宝・重要文化財の合計で1万4千件あまり）のわずか0.3%に過ぎない。がんばろう。

履修上の注意

- *黙って写真を見ていればよいなどと気楽に考えてはいけない。活発に発言してほしい。
- *遅刻や欠席の扱いについては、初回到諸君と合意したうえで、受講態度として評価に反映する。

予習・復習

- 【予習】指示にしたがって教科書に目を通しておく。
- 【復習】教科書の作品解説を読み返して、理解するよう努める。

評価方法

期末ごとに筆記試験を行なって評価する。通年科目だけれども、春期末にも試験を実施することに注意。また演習科目であるから、受講態度を重視する。

配点比率：春期末試験得点 40%、秋期末試験得点 40%、受講態度 20%

テキスト

- ・教科書名：よくわかる国宝 国宝でたどる日本文化史
- ・著者名：岡部昌幸監修
- ・出版社名：JTBパブリッシング
- …毎回持参すること。変更する可能性があるため、4月に配付する「教科書販売一覧」で確認。
- ・参考書：『新版 図説歴史散歩事典』 佐藤信編（山川出版社、2019年）
…必須ではないが、持つことを強くすすめる。たいへん役に立つ本である。
- ・その他、必要に応じてプリントを配付する。

授業概要

この授業では平安時代中期の歌物語である『伊勢物語』を読む。『伊勢物語』は、在原業平に擬せられる主人公「男」の一代記の体裁を取る。一つ一つの章段は短く、読みやすい上に面白い。後世の文学作品に大きな影響を及ぼした作品であり、一度は触れておきたい名作である。

とはいえ、一般的に一二五段からなる『伊勢物語』を通読するのは難しいので、特に有名な章段に絞って輪読する。教科書には、主に教員を対象とした参考書を用いる。語句や先行研究について簡単にまとめられているので、それを補助線として「問題のありか」を見分ける力を身につけよう。

各学期の後半には、自分が気になった問題について発表を行ってもらおう。三年次の専門演習にむけて、基礎的な発表の技術についても学んでほしい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	『伊勢物語』と歌物語について	第 17 回	六九段「狩りの使ひ」を読む
第 3 回	初段「初冠」を読む	第 18 回	九段「東下り」を読む
第 4 回	四段「月やあらぬ」を読む	第 19 回	八二段「渚の院」を読む
第 5 回	先行研究の調べ方・資料の作り方	第 20 回	八三段「小野の雪」を読む
第 6 回	六段「芥川」を読む	第 21 回	一〇七段「涙川」を読む
第 7 回	二三段「筒井筒」を読む	第 22 回	一二五段「つひに行く道」を読む
第 8 回	二四段「梓弓」を読む	第 23 回	学生発表①
第 9 回	学生発表①	第 24 回	学生発表②
第 10 回	学生発表②	第 25 回	学生発表③
第 11 回	学生発表③	第 26 回	学生発表④
第 12 回	学生発表④	第 27 回	学生発表⑤
第 13 回	学生発表⑤	第 28 回	学生発表⑥
第 14 回	学生発表⑥	第 29 回	学生発表⑦
第 15 回	学生発表⑦	第 30 回	学生発表⑧

到達目標

- ①『伊勢物語』の各章段について、これまでどのように読まれてきたのか、どこに論点があるのか理解する。
- ②メディアセンターを利用して辞典や文献を調査できるようになる。また、授業中に示した形式で発表資料を作成できるようになる。

履修上の注意

事前知識は無くてもかまわないが、一年を通して古典文学を扱うことを理解しておくこと。

授業中に意見を求める場合があるので、当てられた時には何かしら答えること。なお、受講者数によって授業計画を変更することがある。

予習・復習

詳しくは初回に説明するが、教科書の一部を事前に読んでおく。授業中の解説を聞いても理解できなかった箇所は、教科書を読み返して復習する。

評価方法

授業への参加度（30%）・発表内容（70%）によって判断する。

テキスト

- ・教科書名：『学びを深めるヒントシリーズ 伊勢物語』
- ・著者名：早稲田久喜の会編著
- ・出版社名：明治書院
- ・出版年（ISBN）：2018年3月（4625624517）

授業概要

本演習では、子どもたちの自立的な学びを支援する学習指導法のあり方について理解を深めたい。春期では、教育心理学をベースとした個別学習指導の技法である「認知カウンセリング」について学ぶ。秋期では、認知カウンセリングの発想を生かした集団授業デザインである「教えて考えさせる授業」について学ぶ。教員志望の学生はもちろん、子どもの学びやその支援に関心のある学生の参加を歓迎する。

授業計画

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	認知カウンセリングとは何か	第 17 回	教えて考えさせる授業とは何か
第 3 回	認知カウンセリングの技法	第 18 回	教えて考えさせる授業の基本構造
第 4 回	理論編①：記憶と理解	第 19 回	授業ビデオの視聴と検討①
第 5 回	実践編①：ケースの紹介	第 20 回	授業ビデオの視聴と検討②
第 6 回	理論編②：学習観・学習方略	第 21 回	授業ビデオの視聴と検討③
第 7 回	実践編②：ケースの紹介	第 22 回	指導案の作り方
第 8 回	理論編③：メタ認知・自己調整学習	第 23 回	指導案の作成①
第 9 回	実践編③：ケースの紹介	第 24 回	指導案の作成②
第 10 回	ロールプレイ①	第 25 回	授業研究の方法
第 11 回	ロールプレイ②	第 26 回	模擬授業①
第 12 回	ケース報告と検討会の方法	第 27 回	模擬授業②
第 13 回	ケース検討会①	第 28 回	模擬授業③
第 14 回	ケース検討会②	第 29 回	模擬授業の振り返り
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・個別や集団の指導を通じてどのように子どもの自立的な学びを支援できるかを知る。
- ・自分で指導を計画、実行、振り返りできるようになる。
- ・他の人の指導について、批判的かつ生産的なコメントができるようになる。

履修上の注意

- ・教員志望など、教育に強い関心のある学生の参加を推奨する。
- ・毎回の授業では、受講生全員が積極的に議論に参加すること。

予習・復習

- ・事前に予習教材が配布された場合には、必ず目を通しておくこと。
- ・ケース検討会や模擬授業に向けて、授業時間外に準備してもらうことがある。

評価方法

授業への参加態度、ケース検討会での発表、模擬授業でのパフォーマンス、議論における発言などを踏まえて総合的に評価する。

テキスト

教科書は特に指定しない。

- ・参考書①：市川伸一編『学習を支える認知カウンセリング：心理学と教育の新たな接点』ブレーン出版
- ・参考書②：市川伸一編『認知カウンセリングから見た学習方法の相談と指導』ブレーン出版
- ・参考書③：市川伸一編『授業からの学校改革：「教えて考えさせる授業」による主体的・対話的で深い習得』図書文化

その他、必要に応じて授業中に資料を配布する。

授業概要

現代の諸文化をメディアという視点から考える。①制作実践、②テキスト講読、③ディスカッションの3つを軸に授業を行う。①：ネットを使用し記事を作成・編集することを最終目標とする（Wikipediaを予定）。ネットの特性を学びながら、リサーチと文章執筆、また受講生同士でのチェックを行う。②：入門的なテキストを通してメディアを理論的に理解することを目指す。テキストは、いくつかの候補のなかから受講生と相談して選択する。各回の担当者が内容を要約して発表し、全員で意見交換を行う。③：現代社会のあらゆる場面に浸透している音楽と映像に関する話題提供を行うので、それをもとに全員でディスカッションを行う。身近なポップカルチャー、サブカルチャーと社会の関係について意識的に考えることが目的である。

授業計画

第1回	春期の進め方		第16回	メディア論のテキスト講読1
第2回	メディアを学ぶとは？		第17回	メディア論のテキスト講読2
第3回	ウェブメディア制作実践	準備1	第18回	メディア論のテキスト講読3
第4回	//	準備2	第19回	メディア論のテキスト講読4
第5回	//	準備3	第20回	メディア論のテキスト講読5
第6回	//	リサーチ1	第21回	メディア論のテキスト講読6
第7回	//	リサーチ2	第22回	メディア論のテキスト講読7
第8回	//	リサーチ3	第23回	メディア論のテキスト講読8
第9回	//	作成1	第24回	メディア論のテキスト講読9
第10回	//	作成2	第25回	メディア論のテキスト講読10
第11回	//	作成3	第26回	音楽と映像の関係1
第12回	//	校正・校閲1	第27回	音楽と映像の関係2
第13回	//	校正・校閲2	第28回	音楽と映像の関係3
第14回	//	校正・校閲2	第29回	音楽と映像の関係4
第15回	まとめ		第30回	まとめ

到達目標

- ・メディアについて、理論と実践の双方から理解を深める。
- ・ポップカルチャー、サブカルチャーといった日常をとりまく現代文化の成り立ちについて、メディアという視点から考えることができるようになる。
- ・リサーチや文章執筆、資料作成、プレゼンテーションのスキル、質問のスキルを磨く。

履修上の注意

- ・受講生の人数によっては授業計画の順番が変更になる可能性がある。購読の回数が増減する可能性もある。
- ・すべて出席し、積極的に授業に関与すること。特にメディア制作は、ネットの特性等にじゅうぶん注意しながら責任を持って臨む必要がある。
- ・メディア文化やポップカルチャーに関心がある者の受講を歓迎する（ただし詳しくなくてもよい）。

予習・復習

課題・発表等について、自分のスケジュールをよく考えて準備しておくこと。配布した資料やテキストにしっかり目を通し、自分の意見をまとめること。

評価方法

受講態度、提出物、レポートによる総合評価。

テキスト

教科書は指定しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。

授業概要

本演習では3年次の専門演習に向けた準備をする(専門演習では4年次の卒業論文に向けた準備をする)。従って、特定の言語資料(新聞や漫画)を見定め、分析し、調べ物をする事、それを発表資料にまとめ、口頭発表をすることといった、言語研究の基礎を身につけることを目標とする。授業の形態としては、最初に講師が分析の仕方などを詳しく示し、それに倣って準備期間を経て各自で発表するというものになる。

言語資料は古代から現代まで様々あるが、本演習では現代の新聞(文章語)および漫画(口頭語など)における書かれた言葉を資料とする。これらは国会図書館にも収められており、学術的に利用できる。

授業計画

第1回	春期の進め方の説明と資料の相談	第16回	秋期の進め方の説明と資料の相談
第2回	文体の概説①	第17回	文体の概説③
第3回	文体の概説②	第18回	文体の概説④
第4回	漫画の発表①	第19回	漫画の発表⑦
第5回	漫画の発表②	第20回	漫画の発表⑧
第6回	漫画の発表③	第21回	漫画の発表⑨
第7回	漫画の発表④	第22回	漫画の発表⑩
第8回	漫画の発表⑤	第23回	漫画の発表⑪
第9回	漫画の発表⑥	第24回	漫画の発表⑫
第10回	新聞の発表①	第25回	新聞の発表⑦
第11回	新聞の発表②	第26回	新聞の発表⑧
第12回	新聞の発表③	第27回	新聞の発表⑨
第13回	新聞の発表④	第28回	新聞の発表⑩
第14回	新聞の発表⑤	第29回	新聞の発表⑪
第15回	新聞の発表⑥	第30回	新聞の発表⑫

到達目標

書かれた言語資料を集めて分析することができ、自分自身で日本語学の分野の発表の基礎的な準備ができるようになること。特定の言語資料(新聞や漫画)を見定め、文章語と口頭語を対照しながら、その言語資料の文体の特性を複数見つけ出して論じることができるようになること。

履修上の注意

「日本語の文法、日本語学(概論)、日本語学(各論)、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修してほしい。また、エクセルを頻繁に使うので、苦手な人はあらかじめエクステンションセンターの講座などで勉強しておくとうい。

予習・復習

授業は、各自が発表準備を間に合わせることを前提としており、最初の発表者は短い準備期間で仕上げることになる。発表の順番などは原則としてクジで決める。受講者の人数次第では講義の回数を増やすか、あるいは発表を複数回担当することもありうる。各自発表に間に合うように努力されたい。

評価方法

発表および定期試験(80パーセント)、その他受講態度等(20パーセント)で評価する。

テキスト

・教科書は使用しない。資料については以下のとおり。新聞や漫画は講師が資料を配付することも、受講者が用意することもある。新聞は「朝日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞」などの記事を利用するが、受講者間で資料が異なるようにしたい。漫画は特定の作品のセリフなどを資料とするが、基礎演習では数話程度、専門演習では1巻分程度を扱う。受講者間で作品や作者が異なるようにしたい。